

第5分科会（小学校・今日的教育課題）記録

提言テーマ「自立と共生を図り実践的な態度を育む教育の推進並びに家庭・地域等との連携」
～全ての子どもに対する学びの保障と充実を目指して～

提言者〔有田町立有田小学校 松尾 寛〕

司会者〔鳥栖市立鳥栖北小学校 長尾 真司〕

記録者〔伊万里市立松浦小学校 山崎 秀隆〕

【研究協議題】

- ・子どもの学びを保障するために、保護者と地域、教師がどのように連携しているか。
- ・小学校における若手職員の資質向上。

1 質疑応答

なし

2 グループ協議報告

(1) Aグループより

- ・ 支援を要する児童については職員連絡会等で共通理解を図り、必要に応じてケース会議を開き、具体的な対応策を考え、実践している。
- ・ 会議は時間を制限して行い、放課後デイサービスなどの外部機関との連携を図っている。
- ・ OJT研修を行い、若手教員を指導助言者として資質・能力の向上を図っている。
- ・ 校内研究は個人でテーマを設定して個人研究に取り組ませている。

(2) Bグループより

- ・ 地域行事で子ども自身が考えて参加する場があり、地域に支えられながら育っている。
- ・ 保護者が少ない地域は、教員と地域、保護者が連携する時間をつくることが課題である。
- ・ 毎年新規採用者が2名ずつ配置される学校では、若手はその思いを聞き、周囲に協力を呼びかける役割を担っている。
- ・ 学習指導要領に基づき、指導のねらいを明確にさせて授業に取り組ませている。参観者は、授業の視点を共通理解したうえで助言を行っている。

(3) Cグループより

- ・ 特別支援教育コーディネーターを中心に課題を明らかにし、支援の方向性を見出している。
- ・ 職員、民生委員、地域の方々、専門家など様々な立場の方が支援に関わる情報を入力することで個別の支援計画の方向性を示すことができる支援ソフトを導入し、活用している。
- ・ 通常学級担任と特別支援学級担任のどちらも経験させ、自己有用感を高められるような適材適所の配置を考えている。

(4) Dグループより

- ・ 同地区内の学校での情報共有や支援体制を統一する取組はとても参考になった。ただし、各学校の現状や学校規模によりケースが異なり、それぞれに応じた対応策も必要である。
- ・ 児童個人のデータ共有や管理、分析による個別支援の対応は、若手教員にとってはとても有効であると感じた。

第5分科会（中学校・今日的教育課題）記録

提言テーマ『AIを活用したセーフティーネット』に係る学校での取組

～小・中連携の視点からのマネジメント～

提言者 [みやき町立三根中学校 江島 裕章]

司会者 [鳥栖市立鳥栖北小学校 長尾 真司]

記録者 [みやき町立中原中学校 田中 克三]

【研究協議題】

- ・子どもの学びを保障するために、保護者と地域、教師がどのように連携しているか。
- ・小学校における若手職員の意識向上。
- ・（中学校）多様化する課題を抱える生徒に関する情報共有の在り方。

1 質疑応答

なし

2 グループ協議報告

(1) Eグループより

- ・大規模校の連携はどうしても漠然としがちである。学校全体で開発的生徒指導を進め、生徒の中からリーダーを育て、校則改正など主体的な活動に取り組みさせていくことが大切である。
- ・生徒指導主事や学年主任をいかに育てるかが重要であり、「リーダーシップを発揮しない」、「学年を把握していない」主任の場合、保護者対応等で苦勞することが多くなる。
- ・小規模校においては、児童生徒の特性や人間関係に関することについて小中の職員が互いに情報を共有し、把握するようにしている。また、コミュニティ・スクールの組織も協力的で役立てている。
- ・情報共有の方法としては、何かあればパソコン上の共有フォルダに入力し、定期的な部会・協議会で対応を協議している。
- ・問題事案等が発生した際の「初期対応メモ」を全職員が日常的に共有できるようにパソコンのデスクトップ上にアイコンを作成し、「いつ、誰が、どんなことをして、どのように対応したか」を入力する体制をとっている。その情報をもとに、管理職からどの職員がグリッして対応するか指示をするようにしている。

(2) Fグループより

- ・校長会の自主研究会において、特別支援教育に関する課題の見直しを図るために、各教師へのアンケートを実施したり、保護者、有識者、退職校長、現職担任等から話を聴く機会を設けたりしている。
- ・町がAIを活用して様々なリスクの可能性のある児童生徒を洗い出し、適切な対応や関係機関への連携を指示してくれるシステムを導入し、小から中へのデータの共有を行っている。
- ・校内でのスクリーニング会議で気になる生徒の日頃の様子等について情報交換を行う中で、ベテランの培ってきた観察眼や生徒への関わり方等について、初任者や若手職員への継承がなされている。
- ・生徒に関する情報共有の方法については、生徒指導部会を時間割の中に位置づけたり、月1回の全職員による生徒指導協議会を実施したりと学校の実情に合わせて工夫し、実施している。
- ・共有した情報がなかなか学年に下りていかないという課題があったため、職員の昼休みを分割して学年会の時間を確保したり、生徒の登校完了時刻と職員の勤務開始時刻をずらして打ち合わせの時間を確保したりするなどの校時の工夫を行っている学校の実践も参考にしたい。